



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレスト北11西1B棟新築工事	階数	地上14F
建設地	札幌市北区北11条西1丁目3-1他	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	260 人
気候区分	2地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2016年3月7日
敷地面積	1,645 m ²	作成者	壁下浩
建築面積	580 m ²	確認日	2016年3月31日
延床面積	5,643 m ²	確認者	壁下浩



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 79%
③上記+②以外の 79%
④上記+ 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住棟配置は南面開口を有効に確保するものとし通りへの環境配慮として、植栽・照明等の連続した配置により、街並、駐車場部分の修景を行なった。 	<p>A 省エネルギー</p> <p>注) 「A: 省エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅性能評価の温熱環境断熱性能等級4を確保しております。 ・効率の優れた潜熱回収型給湯設備の採用など、省エネルギー効果が期待できる。 	<p>D 雪処理</p> <p>注) 「D: 雪処理」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内及び歩道の一部をロードヒーティングとし、冬期間の除雪の軽減に努めている。
<p>B 省資源等</p> <p>注) 「B: 省資源等」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別を比較的容易にしている。 	<p>C 緑化</p> <p>注) 「C: 緑化」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路際には植栽を連続させ、常緑の高木の連植の間には開花により彩をもたらず植栽計画とした。 	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される